



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



札幌部会(第27回)

日時: 2021年9月18日(土) 15:00 - 17:00

場所: ZoomによるWeb会議

参加者: 18名参加

【内容要旨】

1. 東京証券取引所の鈴木深氏から、夏の経済教室の参加者状況やその声について報告が行われた。
2. 新井明先生から、①経済教室の総括、②コロナ教材の編集に関する反省と今後の展望について報告が行われた。とくにコロナ教材の作成として、フォーマットをもとに1ページに収める形式を用いたが、このことのプラス面とマイナス面について説明された。その後、篠原代表からは、大杉先生のネットワーク理事会での3つの提起(①政策選択できる教材、②日々の生活に役立つ教材、③世の中の動きを結びつけられる教材)や、中川先生のコロナ禍で露見されてきたことに対するコメント(①教科書とテクノロジーの関係性、②行動原理の理解のための行動経済学の可能性)が活用できる旨について補足が行われた。この関連から、(A)新古典派の理論をしっかりと教えてから、行動経済学を取扱う方が良いのか、(B)いきなり行動経済学を取扱っても良いものか、について今後の検討課題として残された。
3. 安野雄一先生(大阪市立東三国小学校)から、「よりよい未来を『そうぞう』し続ける子どもを育む経済教育の構想」の資料に基づいて、経済的視点が価値判断・意思決定に与えた影響について実践報告が行われた。価値判断の内容として、4象限(横軸:生産者は生産者自身のために葡萄を生産するべきか否か、縦軸:葡萄農家は私たちの生活を豊かにしているか否か)による分類方法が用いられている。報告後に、①経済的視点を明確にした方が良く、②ぶどう生産者によるブランド化などを需給曲線で示すと、上の学年でも使えるようになるので発展性を感じる、③計画したカリキュラムと実施したカリキュラムのずれを明らかにすること、④生産者と消費者のwin-win性(消費者のコスパ志向、生産者による対抗視点)に気づくものであればなお良いのでは、など助言がなされた。
4. 川瀬雅之先生(札幌新川高校)から、「課題探究学習教材の開発⑥」の資料に基づいて、道内7空港民営化に関する授業プラン「コロナ禍を乗り越え、北海道の活性化をめざす事業投資計画の構想」が報告された。空港・航空はあくまでも「派生需要」との前の助言を受けて、消費ではなく投資を呼び込み雇用創出を目指すという未来構想の投資計画を立てるものに改善している。併せて指導計画も示され、1年「現代社会」の経済分野のまとめとして、今後11月末から12月末にかけて実践予定とのことである。報告後に、シンクタンク、コンサルタントとしての生徒の位置付けや、現状是認だけでなく批判的思考をいかに育むのかについてなどの質疑応答が行われた。生徒の取組状況など、実践後に改めて報告を行うとのことである。

[文責:山崎辰也]

<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
--	--	--	---	------------------------------------

次回開催予定: 2021年11月20日(土) 15:00~17:00

議題 北海道の地域教材、経済に関する授業案の交流など